

南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 脇阪 義幸
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



京都(嵯峨野)

本願のいわれ

現在ロンドンで活躍中と伝えるアランナ・コリン女史が「あなたの体は九割が細菌」と題した本を河出書房から出版した。その中に「あなたの体のうち、血と肉と筋肉と骨、脳と皮膚だけでなく細菌と菌類が含まれている。あなたの体はあなたのものである以上に、微生物のものでもあるのだ」と科学者らしい眼で指摘している。

経典に説かれている、いのちへの視点とあまりにも違うということは言うまでもないが、今、生かされている私のいのちは、私のものでありながら私有化を許さない、私を越えているいのちと教えられている。さらにそこには深い願いが流れていると説かれる。本願といわれる所以である。以前、聞法会で「私は何で成り立っているのか」問題提起をしたことがあるが、九割が細菌だと分析する科学の立場と「本願のはたらき」と説く仏説では、同じいのちにかかわりながら全く異質な取り組みになっている。

親鸞聖人の御和讃を頂くと、
本願力にあいぬれば

むなしくすぐるひとぞなき

功德の宝海みちみちて

煩惱の濁水へだてなし

と感動されているように、わからない未来でなく今を生かされている感動を表白された御和讃と頂いている。九割を占めるという細菌などにそんな用きなどあり得ない。無始よりこのかた本願の力に目覚め、真の人間を誕生せしめてきた歴史に参画できるご縁が無上の喜びである。

(大谷 義博 記)

『ぬけぬけと 鬼は外とは その口で』2月の節分が過ぎればすぐに3月春彼岸になります。

「暑さ寒さも彼岸まで」と言い尽くされた言葉であります。今年3月17日(金)彼岸入り、20日(祝)お中日、23日(木)お結願、の春季お彼岸をむかえます。

西徳寺は例年の如く、下記の通り**春季彼岸会・聖徳太子奉讃会**を、本山よりお差し向けの御布教使をお迎えして、お勤め致します。

ご家族そろってお参り下さいますよう、おとき(お食事)も準備してお待ち致しております。

お彼岸は、日本独特の仏教行事です。お中日(春分の日)は、その日太陽が真東から昇り真西に沈むこと

から、西方の十万億土の地にあるとされる「極楽浄土(真実土)に生まれること」を願う(欣求浄土)ことが始まりであり、同時に一足先にお浄土に還られたご先祖を偲び、墓参りをするという習慣が定着してきたものです。

慈光に照らされて(阿弥陀如来の私に掛けられた願い)初めて自分の愚かさ、無力さを気づかされ、八方ふさがりの私が、「ああ、ほんとうにこれしかないのだ」と思い至った時、親鸞聖人しんらんしょうにんがお示しになられた『唯可ゆいか信斯しん高僧こうそう説せつ』(正信偈)「ただ信ずべし」のお言葉に安心と落ち着きと励ましを頂くことができるのです。仏のお徳と仏国土をたたえる彼岸会をご縁として、「一緒にお念仏をして、さらなる聞法の生活を重ねましよう」と親鸞さまの声が聞こえてまいります。

『春彼岸 仏の種を まく日かな』

仏具磨きのお誘い

3月22日(水)に春季永代経法要を迎えるにあたりまして、春の仏具磨きを行いたいと思います。本堂のお荘厳や御内仏の仏具磨きや、参詣席や会館の清掃なども含めてご協力いただきたく存じます。本山差向布教も併修されますので、綺麗なお荘厳で布教使様をお迎えしたいと思っております。

当日は昼食を用意します。是非ともご協力くださいますようお願い致します。

期 日 **平成29年3月8日(水)**

午前10時から(雨天順延)

場 所 西徳寺境内

※参加いただける方は**3月2日(木)までに**寺務所までご連絡ください。

(電話 **03-3875-3351**)

ひがんえ 春季彼岸会・ しょうとくたいし ほうさんえ 聖徳太子奉讃会の ご案内 さしむけふきょう (本山差向布教)

記

平成29年3月22日(水)

- ・午前10時 春季永代経法要 お勤め・法話
- ・午前11時30分 合唱団「エコー」演奏会
- ・正午 お斎とき
- ・午後1時30分 聖徳太子奉讃会 お勤め・法話しょうとくたいしほうさんえ

本山差向布教 布教使 わくらじゆんにん和藏順人師
(滋賀県長浜市 善隆寺住職)

◎おときの準備のため、**3月15日までにハガキにて**
お申し込みください。



親鸞さんのことば

然れば則ち浄邦縁熟して、
調達、闇世をして逆害を興ぜしむ。
浄業機彰れて、釈迦、
韋提をして安養を選ばしめたまえり。
『教行信証』「総序」

松井憲一

人を大切にしているのに、恋愛の
連れや介護疲れで殺人事件になり、
いじめや過労で自死に追い込まれ
る悲しい事件が続いています。お釈
尊さまの時代にも痛ましい事件が
ありました。インドの大国・王舎城
(マカダ国)に頻婆娑羅王と、
王妃韋提希(韋提)の間に両親と国
民の期待を背負った阿闍世(闇世)
という子がすくすくと育っていま
した。ところが成人すると、釈尊の
いとこの提婆達多(調達・釈尊の
教団を乗っ取るうとした野心家)に
そそのかされて、父である王を獄死
させたのでした。「調達、闇世をして
逆害を興ぜしむ」というのは、提婆
達多と阿闍世が興したこの逆害の
事件のことです。

この事件について、親鸞聖人は
「然れば則ち浄邦縁熟して、調達、
闇世をして逆害を興ぜしむ」とい
われます。これは、前の文章(『えこ
お』28年10月号参照)を受けていま
すから、難度の海にあつぷあつぷ
している人生を渡し、わたしの事
が見えていない闇を破る法(みの
り)があるからこそ、浄土の教えを
説くご縁が十分に熟したと理解さ
れたのでしよう。それで、提婆達多
(調達)と阿闍世(闇世)との逆害の
罪をも救う教えがあきらかになる
出来事を、興させたといわれます。
ご縁によつて、いかなるふるま
いをもするわれらは、法律で裁か
れる行為をして償いはできても、
本当の救いにはなりません。
「老少善悪の人をえらばれず
(『歎異抄』)」に「本願を信じ念仏を
もうさば仏になる(同)」には、阿弥
陀仏の平等の大悲に出遇つて
罪悪深重の身を懺悔するしかあり
ません。それで聖人は、「然れば則
ち浄邦縁熟して、調達、闇世をして
逆害を興ぜしむ」といわれたので
しよう。

られることとなります。韋提希は、
愁憂の中でお釈迦さまのお弟子に
救いを求めますが、耆闍崛山で説
法中のお釈尊さまは、中座して直
ちに牢獄の韋提希のもとに現れま
す。お釈迦さまを前にした韋提希
は、「私はどんな罪があつてこんな
悪い子を生んだのか。お釈迦さま
はどうしてわが子をそそのかした
提婆達多と親戚なのか」と恨みを
いいます。その愚痴と苦悩の事実
を黙って引き受けられたお釈迦様
は、韋提希みずからが、阿弥陀仏の
浄土に生まれて往くための道を選
ぶように、導いていきます。この王
舎城の事件を自分の上に見られた
聖人は、「浄業機(浄土を願う愚か
な相)が彰れて、釈迦(が)、韋提を
して安養(阿弥陀仏の浄土)を選ば
しめたまえり」といわれるのです。
「惚れるなら、お阿弥陀さんが一
番手、ご師匠さまは二番手。お阿弥
陀さんは救うてくれる、お師匠さ
まは救うてくれん。お師匠さまは
道案内だ、お師匠さまは人間だ。救
われないのがまことなら、阿弥陀
の子になりや一番早い、訳は阿弥
陀に聞くがよい」という、念仏者・
浅田正作さんの詩があります。自
分の力では、愚痴一つとれないこ



とに気づくと、師から聞いた浄土
に生まれよというお釈迦様の教え
のもと、阿弥陀仏の呼びかけ、勅
命であつたのです。
「一億総 活断層の 上に寝る」
われらは、何が起つても受け止め
るよりほかありません。「逆害を
興し」「安養を選んだ」という
『観無量寿経』の説を、聖人が、「調達、
闇世をして逆害を興ぜしむ」「釈迦、
韋提をして安養を選ばしめたまえ
り」と頂かれて、浄土の教が興るき
つかけとなつた如来の世界に報謝
される姿に、学びたいものです。

山門の言葉

謙虚さに ひそむ 傲慢さ



年末、体調不良で入院し、各方面に多大な迷惑をかけた。自分の想像を遙かに超えて、私事では済まない日々を過ごしていたことを感じた病床だった。

身内を人質に立てこもった自殺志願者、警察が突入して保護したニュースに息子から、「人質がいなくても警察は来てくれる？」と問いかけられ言葉に詰まった。

「他の人を巻き込むな、一人で勝手にどうぞ……」。生きることもいのちも「私事」に染まっている。他人の介入を拒み、踏み込まれれば「俺の勝手だ」といわんばかりにキレる。しかしそれ以上に、「これは私事です」と謙虚に一人で背負い込み、責任を果たせると錯覚することこそが恐ろしい。

そもそも生まれたことそのものが私事を越えた事実ではないか。老いることも病に伏すことも、そして死ぬことも実は私事で片付かない。耳慣れた「生老病死」。人生は思い通りにならないという苦を表しているが、人生全てが私事で片付くような薄っぺらいものではないと教えているのではないか。

実はこれこそが冠婚葬祭の簡略化、簡素化が進む時代、様々な要因の中に横たわる最も深い闇だと感じている。儀式や儀礼が煩わしいのは今も昔も同じであろう。しかしそれ以上に人生の深さや幅広さ豊かさが確認され続けてきたからこそ続いてきたのではないだろうか。

感覚の鈍さ狭さが、人生を私事にしていく。これほどの悲劇はない。だからこそどんな人も抱える共通の課題が「生老病死」であるとお釈迦様は教えている。

気が付かぬうちに自分を中心に置く傲慢な生き方は不治の病、それは人生の深さ幅広さを喪失する重病なのである。本山の謙虚な心は賜るほかにない。それは傲慢な生き方に頷けたその時である。

(山崎 哲記)

日誌

- 12月16日 『唯信鈔』に聞く 講師 宗 正元師
- 12月17日 定例聞法会、評議員会定例役員会
- 12月20日 責任役員会、起工法要
- 12月21日 婦人会聞法会
- 12月24日・25日 大掃除
- 12月27日・28日 宗祖忌
- 12月31日 歳暮法要(参詣者 約15名)
- 1月1日 修正会(参詣者 約50名)
- 1月7日・8日 中興忌
- 1月8日 婦人会新年会

えこお志お礼

大阪市北区 光明寺 様
北区 小山 光子 様
練馬区 山本 雅彦 様
久喜市 伴野 典子 様

柏市 山本 英男 様
江戸川区 宇田川 輝子 様
鎌ヶ谷市 石口 慶子 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。





第 328 号

婦人会専用口座：
名義 西徳寺婦人会
番号 10030 239 82431

婦人会新年会報告

1月8日11時より、会員37名参加の中、本堂にて高岸副会長の司会進行のもと、西徳寺婦人会の新年会が開催されました。太田会長の挨拶では、「今日一日、今を大事に生きていき、皆さんと楽しく聞法していきたい」と抱負を語られました。

引き続き脇阪住職は挨拶の中で、「熱心に聴聞をしておられる皆さんの姿は、西徳寺の財産である」とおっしゃられ、また「聞かされても頷けない私であるが、聞法を重ねていくことが大事である」と締めくくられました。

大谷最高顧問からは、「南無阿弥陀仏によって救われるとはいったいどういうことなのか、日常の大きな課題として、共に親鸞聖人の教えを問い直していきましょう」と呼びかけていただきました。

新年会終了後、場所を梅檀の間に移し懇親会となりました。恒例のビンゴゲームで盛り上がり、最後は「一月一日」を皆さんと合唱し、大盛況の内にお開きとなりました。(役員 記)



次回聞法会のご案内

日 時 平成 29 年 2 月 15 日(水) 午後 1 時～ 3 時
場 所 西徳寺 星月の間
法 話 法語カレンダーに聞く「無明の闇を破するゆえ 智慧光となづけたり」
最高顧問 大谷 義博
蓮井 邦宗

婦人会総会・懇親会のご案内

日 時 平成 29 年 4 月 19 日(水) 午前 11 時
場 所 総会～西徳寺本堂 懇親会～梅檀の間

ひとこと

聞法会で聞いてきたことが、夫の老老介護を通してうわべだけだったと思われました。夫は病と向き合うため仕事も辞め、もう少し頑張ろうねと前向きになろうとしても、病気の進行が止まることはありませんでした。辛いのは自分だけじゃないんだと言い聞かせてはいても、やはりショックは大きかったです。

夫が亡くなり1年半が経ち、婦人会でも皆様に優しい言葉をかけていただき、両親の法要も無事できたということで、少しずつですが自分を取り戻しつつあることに、幸せを感じるようになりました。(小山 光子)

掲示板

平成29年2月

- 4日(土) 午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習
- 5日(日) 午後2時 城東ブロック会間法会
(本八幡・うえだ別館)
- 11日(土) 同行会「現代の聖典」に聞く
法話 山崎 哲
- 15日(水) 午後1時 婦人会間法会
- 18日(土) 午後1時半 定例間法会
- 午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習
- 19日(日) 午後2時 城南ブロック会間法会
(馬込・東京イン)
- 23日(木) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く
講師 宗正元師
- 25日(土) 午後6時 同行会「現代の聖典」に聞く
法話 大橋 伊知郎
- 28日(火) 午後7時 仏教青年会座談会

仏教青年会報恩講

昨年11月15日(火)、仏教青年会報恩講をお勤めいたしました。講師として熊本県益城町にある阿弥陀寺の大谷義文師に法話を依頼し、多くの方に聞いていただきたく、本堂でお勤めをいたしました。『正信偈』をお勤めの後、法話では「悲しみと共に生きる」という講題のもと、昨年4月に起きた熊本地震を通して、悲惨な現実の中で感じた我が身の話。また私たちがいただいているいのちを、改めて見つめ直すような、大事なお話を聴聞させていただきました。(仲井 真裕 記)



本山佛光寺 御正忌報恩講 「団体参拝旅行のご報告」

昨年11月27日(日)～28日(月)、本山佛光寺において厳修される「親鸞聖人御正忌報恩講」に団体参拝するため、参加者38名による1泊2日の旅行に出かけました。

27日は午後2時の大速夜法要に、11月4日に新門主となられました眞覚新門様がご出仕され、薫照ご門主様のご親教を代読されました。そのお言葉に一同、静かに耳を傾け、親鸞聖人のご法義を頂戴致しました。その後バスで一路、雄琴温泉に向かい、賑やかな夕食を頂き、皆さんとの親睦を深めることができました。

28日は国宝「彦根城」を観光し、午後からは長浜市にある渡岸寺観音堂(向源寺)に参拝して、国宝「十一面観音像」を拝観しました。この像は平安初期(9世紀)の作品とされ、日本では観音像の代表作といわれ、皆さん神妙な面持ちで眺めておられました。

参加された方の中から、この度の旅行を契機として、これからも別な旅行を計画して欲しいという要望をお聞きました。今後も何か別なかたちで企画を考えていきたいと思っております。

(木村 専正 記)



仏教青年会主催「念珠教室」

昨年11月6日(日)、西徳寺報恩講2日目、奉讃法座におきまして「念珠教室」を開催いたしました。『正信偈』をお勤めした後、青年会員指導のもと、ご参加いただいた皆さんと一緒に、手づくりながらも楽しく念珠を作りました。

その後、自分で作った念珠を手にて恩徳讃を唱和しました。やはり自分で作った念珠は違ってみて、報恩講以降も使っていた姿をよく見かけます。これからも大事にお使いいただければと思います。(仲井 真裕 記)



修正会報告

雲一つ無い穏やかな元旦を迎え、早朝7時より本堂において修正会が勤まりました。昨年よりもさらに大勢の皆様と共に『仏説阿弥陀経』と『正信偈』をお勤めしました。

脇阪住職からは「私達は、阿弥陀さんから満願の願いをかけられています。その願いを共に聞かせていただく一年にしましょう」とご挨拶をいただきました。

その後、梅檀の間にて、お雑煮やお酒をいただきながらビンゴゲームを楽しんだり、子どもたち(ご年配の方にも)には住職からお年玉が配られるなど、とても楽しい時間となりました。

(高橋 淳 記)

編集後記

元旦、朝7時から修正会が勤修され、約60名の参詣がありました。本堂で『阿弥陀経』『正信偈』をお勤めし、その後、会館2階の「梅檀の間」に席を移し、恒例の新年会が行われました。

住職の法話に「私たちは年の初めに色々な目標を立てますが、正月の三が日ですら持続できなのも私たちの在り方です」と話されました。今年1年を慮るとき、この身を仏様に尋ねることを忘れずに過ごしていきたいと思っております。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

HP <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(メールでも結構です)

✉ saitokuji@ce.wakwak.com